

課題の7 秋植えタマネギの越冬率向上試験調査（継続）

タマネギは国内において7月から8月下旬の期間に収穫できる産地が少ない。本県は、秋まき栽培、春まき栽培ともに7月から8月下旬の収穫が可能であり、端境期の出荷を狙える。

近年、市内においても、転作田を活用した高収益作物として、タマネギ栽培の取組が拡大しつつあるが、秋植えタマネギの越冬率の向上が課題となっていることから、中晩生種、晩生種における越冬率を調査する。

1 調査内容

(1) 栽培環境 露地ほ場

(2) 供試品種 中晩生種：ネオアース（タキイ種苗）
晩生種：ケルたま（タキイ種苗）

(3) 調査方法

品種ごとに雪解け後の越冬率のほか、収量調査を実施

(4) 耕種概要

①播種日：ケルたま 8月14日 200穴セルトレー
ネオアース 8月29日 200穴セルトレー

②定植日：ケルたま 10月1日
ネオアース 10月17日

③栽植様式：畝幅190cm（床幅90cm） 株間10cm 条間25cm 4条植え
栽植株数 21,053本/10a

④施肥量



区分	肥料名（N-P-K%）	施肥量（成分量 kg/10a）		
		窒素 N	リン酸 P	加里 K
基肥	燐硝安加里 1号 S552（15-15-12）	8.2	8.2	6.6
	有機アグレット 666（6-6-6）	2.2	2.2	2.2
	粒状 BM ようりん（0-20-0）	0.0	4.4	0.0
追肥	燐硝安加里 S646 追肥専用（16-4-16）	4.7	1.2	4.7
合計		15.1	16.0	13.5

⑤追肥日：4月7日 4株の中心に施肥

⑥収穫日：6月30日（ネオアース） 7月7日（ケルたま）

2 調査結果

(1) 生育状況

5月下旬からべと病が見られたが、定期的な薬剤散布により収量や品質に影響を与えるものではなかった。(薬剤散布状況は表1参照)

表1 薬剤散布状況

散布月	殺菌剤(成分)	殺虫剤(成分)	対象病害虫
9月	2回(TPN、マゼブ)	3回(ハルメトリ、シハルメトリ、MEP)	べと病、ネギコガ等
10月	3回(トリフルミゾール、TPN、マゼブ)	1回(ハルメトリ)	べと病、乾腐病、ネキリムシ
3月	1回(オキシテトラサイクリン、ストロブマイトン硫酸塩)		軟腐病
4月	2回(マゼブ、ピラクオスタビオン、ホスカリド)	1回(ダイトリ)	べと病、ハモグリバエ
5月	1回(マゼブ、ピラクオスタビオン)		べと病
6月	3回(マゼブ、ピラクオスタビオン、シキキニル・フアキタリ)	2回(ピラクオスタビオン、シハルメトリ)	べと病、アザミウマ、ハモグリバエ

(2) 調査結果

越冬数、収穫数、秀品数を表2、10a当たりの換算収量を表3、越冬率、収穫率、秀品率を図1に示した。

越冬率は、ケルたまが88.1%、ネオアースが77.2%となった。収穫数、秀品数の割合は、ネオアースの方が高く、1個当たりの調整重はネオアースの方がやや軽くなったが、10a当たりの換算収量がネオアースの方が良く、昨年度とは逆の結果となった。

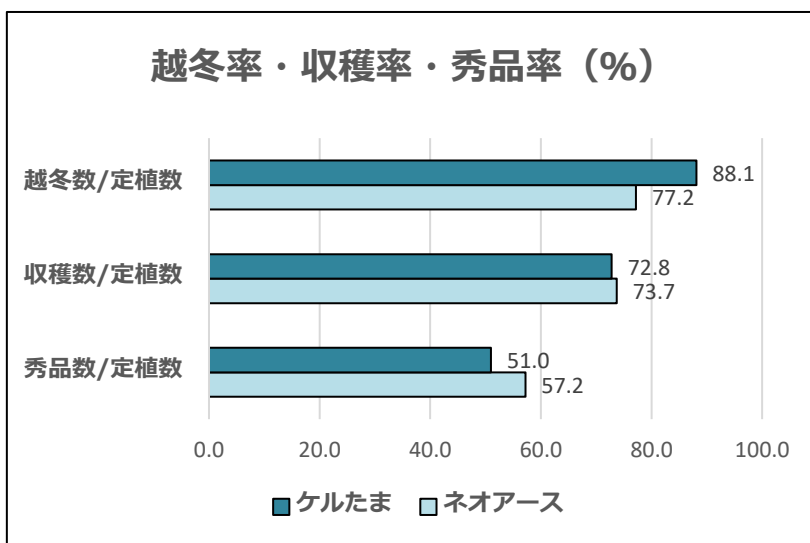
表2 越冬数、収穫数、秀品数

品種名	定植数(個)	越冬数(個)	越冬率(%)	収穫数(個)	収穫率(%)	秀品数(個)	秀品率(%)
ケルたま	2,168	1,910	88.1	1,578	72.8	1,105	51.0
ネオアース	2,136	1,650	77.2	1,575	73.7	1,222	57.2

表3 10a当たり換算収量

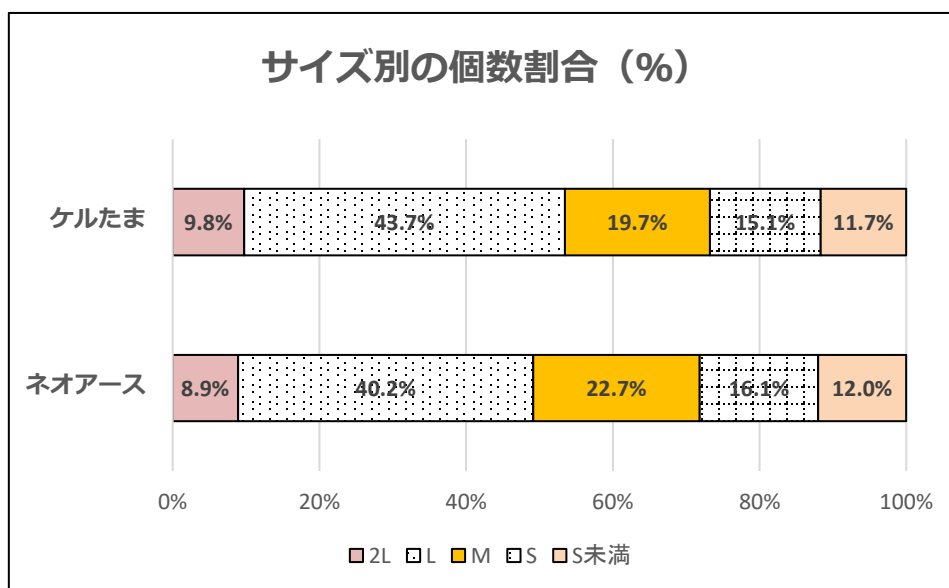
品種	栽植株数(株/10a)	秀品割合(%)	秀品個数(個/10a)	調整重(g/個)	収量(kg/10a)
ケルたま	21,053	51.0	10,737	224.9	2,415
ネオアース	21,053	57.2	12,042	217.5	2,619

図1 越冬率・収穫率・秀品率



サイズ別の割合を図2、10a当たりの収量を試算した結果を表3に示した。Mサイズ以上の割合は、品種間での大きな差は無かったが、ケルたまの方がネオアースより2LやLの割合が高くなり、昨年度とは逆の結果となった。

図2 サイズ別の個数割合



〈参考 タマネギ出荷基準〉

区分	2L	L	M	S
直径	9cm 以上	7.5cm 以上	6.5cm 以上	5.5cm 以上

3 まとめ

ネオアースとケルたまは播種適期が異なるが、昨年度は両品種とも同日に播種したため、適期よりも早く播種したネオアースの越冬率の低下につながった可能性があった。

今年度は、ネオアースの播種を適期の8月末としたことが越冬率の向上につながったものと思われる。秀品割合や収量の比較においても、昨年度と逆転し、ネオアースがケルたまを上回ったことから、品種による播種適期を守ることが越冬率や収量の向上につながる事がわかった。

次年度においても同様の結果となるかどうか、引き続き調査を行う。

〈参考〉昨年度の調査結果

表4 越冬数、収穫数、秀品数

品種名	定植数 (個)	越冬数 (個)	越冬率 (%)	収穫数 (個)	収穫率 (%)	秀品数 (個)	秀品率 (%)
ケルたま	2,030	1,656	81.6	1,598	78.7	1,160	57.1
ネオアース	2,105	1,456	69.2	1,413	67.1	965	45.8

表5 10a 当たり換算収量

品種	栽植株数 (株/10a)	秀品割合 (%)	秀品個数 (個/10a)	調整重 (g/個)	収量 (kg/10a)
ケルたま	19,047	57.1	10,876	198.7	2,161
ネオアース	19,047	45.8	8,723	205.5	1,793

図3 越冬率・収穫率・秀品率

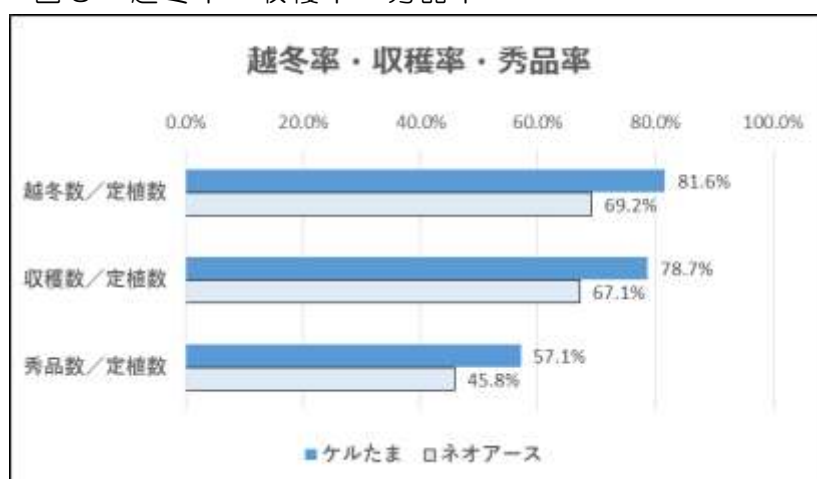


図4 サイズ別の個数割合

